

プーチンと習近平が「国益を捨てて」暴走する原動力は、欧米への「承認欲求」

PUTIN AND XI'S IMPERIUM OF GRIEVANCE

2022年3月10日（木）17時24分

オービル・シェル（アジア協会米中関係センター所長）



西側への恨みと自由と民主主義への嫌悪が2人を結び付ける MAXIM SHEMETOV-REUTERS

＜ウクライナ侵攻も台湾併合の野心も、国益的には「損」なはず。それでも彼らが暴走する背景には「リスペクトされていない」という恨みと怒りがある＞

ネットのニュースでロシアのウクライナ侵攻を知った私は、その衝撃も冷めやらぬうちにそれに追い打ちをかけるようなメールを受け取った。ニューヨークのカーネギーホールで行われるウィーン・フィルの公演のチケットを予約していたのだが、ロシアのプーチン大統領と親交があることで知られる指揮者のワレリー・ゲルギエフがこの公演から外されることになったというのだ。

ロシアが侵攻を開始するまでは西側が中国、ロシアと完全なデカップリング（経済・外交関係などの切り離し）に踏み切ることなどまず考えられなかった。だが「ゲルギエフ外し」が物語るよう

に、中国とロシアが新たな「同盟」を結んだ今、中ロと西側との亀裂は広がり、文化交流から貿易まであらゆるものが切り離されようとしている。

ウクライナ侵攻以前は、EU、特にドイツがロシアの天然ガスという輸血針を引き抜くことなどないとみられていた。大量の「血液」を送り込むパイプライン、ノルドストリーム2を手放すはずがない、と。アメリカも安価な中国製品への依存を断ち切れるはずがないと考えられていた。

グローバル化の最盛期、「ウィンウィンの関係」で世界中が豊かになれるという楽観論が幅を利かせていた時代には、グローバルなサプライチェーンが人類に限りない恩恵を与えると信じて疑わなかった。だがプーチンがウクライナ侵攻を命じ、中国の習近平（シー・チンピン）国家主席が台湾併合による国家再統一を誓うなか、国際秩序は揺らぎ、市場は大混乱に陥り、緊張緩和に役立つはずの文化交流まで断ち切られようとしている。

プーチンと習の重要な共通点

一体何がこの予期せぬ危険な脱線事故を引き起こしたのか。なぜプーチンはロシアの国益をかなぐり捨てて、かつての兄弟国を侵略したのか。なぜ習は、自国民が成し遂げた奇跡の経済成長を犠牲にしてまで、小さな島国の奪取に血道を上げるのか。各国経済が切り離し難く結ばれている今、一体何のために、この2人の現代の「専制君主」はこれほど多くの主要国を遠ざけてまで自滅の道を進むのか。

まず言えるのは、独裁者は政治的なチェック&バランス（抑制と均衡）に縛られず、好き勝手に振る舞えるということだ。その病的な認知のゆがみが意思決定に影響を及ぼしても、誰も止められない。プーチンと習は出自も性格も異なるが、重要な共通点がある。情緒不安定かつ偏執的で、西側の「大国」に自国が虐げられてきたという被害妄想じみた歴史観に凝り固まっている。

次のページ 中ロは「新しい形」の民主主義？

1

2

次のページ

プーチンと習近平が「国益を捨てて」暴走する原動力は、欧米への「承認欲求」

PUTIN AND XI'S IMPERIUM OF GRIEVANCE

2022年3月10日（木） 17時24分

オービル・シェル（アジア協会米中関係センター所長）

この2人が何より欲しているのはリスペクトだ。もちろん彼らは知っている。大半の西側の指導者は自分たちを尊敬していないし、今後も尊敬しない、と。高速鉄道や現代的な都市を建設しても、オリンピックを開催しても、どんなに成功しても尊敬されない、と。この「リスペクト欠乏症候群」が恨みと怒りの強権支配を生む。

共通の怨嗟という磁力がかつてはライバル同士だった2人を結び付け、相互の信頼関係は「無限大」だとまで言わしめた。彼らは、ある国が「民主的かどうかを決める」のはその国民だと主張。中国とロシアは新しい形の民主国家だとまで言い募る。

問題はプーチンが戦争を始めた今、中口のご都合主義の同盟がどこまで持つかだ。ロシアのウクライナ侵攻の直前、中国の王毅（ワン・イー）外相は国際会議で全ての国の「主権」と「領土の保全」は守られるべきであり、「ウクライナも例外ではない」と語っていた。

だが、中口に共通する自由と民主主義への嫌悪は国家の主権を不可侵とする19世紀の理念に勝るだろう。被害妄想的な歴史観が生んだ怒りの暴発はあまりに強力で、国際法の規範では抑えられそうにない。

©Project Syndicate

オービル・シェル

ORVILLE SCHELL

中国専門家。アジア協会米中関係センター所長。中国に関する著書が多数ある。政治学者のラリー・ダイヤモンドと米フーバー研究所の『中国の影響とアメリカの国益』を編纂。

【関連記事】

[プーチンの「取り巻き」が見せる反逆の兆候...「独裁者」の足元が崩れ始めた](#)

[「愛される中国」を目指す習近平の焦り——「中国が理解されていない」](#)

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)